

たかへし

<http://www.suginami-school.ed.jp/takaido4shou/>

杉並区立高井戸第四小学校

生き方科を振り返る

校長 加納 直樹

『教育は人なり』 人を育てるのが学校・教師の仕事です。AIに様々な職業が取って代わられると言われるこれから時代に、学校・教師はAIにその仕事を取って代わられるはずがないと思っています。それはなぜか…。答えはAIは生き方を語れないからです。

学校は、教師は、勉強を教えているのではなく 生き方を教えているんだ!!

そんな強い思いを形にするべく、今年度から、高井戸第四小学校では特色ある教育活動として「生き方科」を設定しました。今「生き方科」を教えるのは何故かを改めてお伝えします。

現代の世の中、子供たちが将来生きていく道には、子供たちが陥りそうな穴がポコポコと開いている気がしてなりません。SNSでのいじめ・デマや差別的な投稿、信じられないような迷惑行為をする動画の拡散、闇バイトなる怪しげな誘いに簡単にかかり、詐欺や強盗、殺人などに手を染める若者たち…。

地に足をしっかりとつけた生き方をしていれば、そのような穴に落ちるはずもないのに、このようなニュースが後を絶ちません。

私たち教師にできることは何か。そんなことを真剣に考えて我々教師は子供たちの前に立たなくてはいけない。そう思っています。

私たちはこの「生き方科」を通して子供たちの心を育てています。先生たちの熱い思いが込められた授業に触れることで、子供たちの心は大きく揺さぶられます。正しく生きることを学び、たくましく生きることについて知り、よりよく生きるとは何か、幸せとは何かを考えます。そして、その中で将来の夢や希望を大きく育むのです。大袈裟かもしれません、今の学校教育に必要なこと、それがこの「生き方科」です。

「生き方科」は教員の育成にもいかされています。教師というこの仕事に誇りをもち、子供たちや保護者に伝えたいことを語り、子供たちや保護者の目を見て話を聞き、その思いを知る。そして、子供たちや保護者、同僚と共に人として成長していくことのできる、そんな教師をこの「生き方科」で育てていきます。

次年度もこの「生き方科」は「生き方学」と名称を変更し、引き続き本校全教職員で実践していきます。この学習の成果はこれからも続けていきながら検証していかなくてはいけませんが、子供たちのあいさつがとても気持ちがよいことや、話を聞く姿勢がよくなっていること。学習面でも、誰も取りこぼさないという姿勢で先生たちが授業に臨み、それに対して子供たちが意欲的に学習に向かい、何とか自力で解決しようと一生懸命に課題に向かっていることなど、子供たちの姿はとてもよくなっていると思っています。

そして、何より、学級の中で子供たちが安心して学び、友達と意見を交わしながら、お互いに認め合い、学び合い、高めあっていくそんな高井戸第四小学校であることをとても嬉しく思っています。